



創立152周年 学校だより

勿来二小

令和7年5月9日(金)

第6号



いわき市立勿来第二小学校長

自分の命は自分で守る訓練

4月30日(水)に震度7レベルの大地震及び、それに伴う3m~10m以上の巨大津波が押し寄せて来るという想定での避難訓練を実施しました。

緊急放送を聞いて、子どもたちは地震による揺



れから身を守る訓練として、まず机の下に入りました。揺れが収まったことを確認した放送から、第1避難場所の校庭(倒壊する建物による影響が少ないブランコ近

く)へ。本部旗を目印に、学年毎に教室を出て速やかに移動できました。人員を点呼し、全員が避難できることを確認した上で、津波が数分後に押し寄せてくる想定での訓練として、第3避難場所である、勿来第二中学校へ移動を開始しました。

これは遠足ではないので、全員が静かに私語をしないで移動することができました。勿来第二中学校へ到着し、全体指導を行いました。

本校校長からは、地震や津波を想定した避難訓練で忘れてはいけない合い言葉の確認を行いました。



その後、教頭先生の指導のもと、防災倉庫の中を見学させていただきました。倉庫の中には、水、非常用食料、燃料、担架、家族用パーティションなどが見えるところにあり、整然と収納されていました。

1年生と3年生は、校舎屋上へ上がりました。勿来第二中学校から、勿来第二小学校の位置、お伊勢山の位置や高さ、勿来第二中学校までのルート、海までの距離などを目で見て確認することができました。

ちなみに第2避難場所は、お伊勢山となっております。お伊勢山には、水道やトイレ、全員が入るこ



とができる屋根等がないため、緊急で避難しなければならない状況の時に移動します。



①低いレベルの津波予想の場合

→本校校舎3階へ避難(完了時間約3分)

②中程度レベルの津波予想の場合

→お伊勢山へ避難(完了時間約10分)

※勿来第二中学校へ避難判断もあります。

③高いレベルの津波予想の場合

→勿来第二中学校へ避難(完了時間約15分)

内閣府(防災担当)の津波に備えるリーフレットを見ると、「揺れを感じたり津波警報を見聞きしたら、津波からすぐ逃げよう!」とあります。日頃からの備えをお願いします。

<家庭での備え>

- ①どうやって避難するか、地域のハザードマップを見て確認しましょう。
- ②家族が一緒にいないときでも、それぞれにどこにどう避難するか決めておきましょう。
- ③災害時に必要なものをあらかじめ準備して、すぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。

また、津波に関するポイントとして、3つ紹介されています。

<津波に備える>

【ポイント1】

津波はとても早くやって来るので津波が見ええてからの避難では間に合いません!

1分1秒でも早い避難が重要

【ポイント2】

高さ30cmの津波でも危険です!

高さ30cmで歩行が困難、50cmで車が流されます。

【ポイント3】

津波の時はどう行動したらいいか、確認しましょう!

津波警報を見聞きしたら、可能な限り高い場所へ避難。警報や注意報が解除され、安全が確認されるまでは、決して津波浸水の危険がある地域には立ち入らない。

地震や津波は時間を選んでくれません。お子さんが登校している時間外でも常に地震や津波に備える事が大切です。ご家庭でも避難場所などの約束事を決め、非常時に備えてください。